

家庭直送版

今号の主な記事

2・3面 竣工セレモニー・内覧会
4面 フェリーあい体験航海〈大阪〉

船員しんぶん

◆ホームページアドレス <http://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行第3072号(昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2024年(令和6年)
12月15日
本紙は毎月5・15・25日発行
〒106-0032 東京都港区
六本木7丁目15番26号
全日本海員組合本部
発行人 齋藤 洋
TEL 03-5410-8329
FAX 03-5410-8337
定価1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

組合本部会館

改修工事竣工セレモニー



新築当時の意匠を最大限に保存・修復した本部会館・外観

12月10日、東京・六本木の海員組合本部会館の地下大会議室において、改修工事竣工セレモニーを開催し、関係者約200人が出席し、改修工事の完成を祝った。竣工セレモニーでは、松浦満晴組合長のあいさつに続き、田中伸一組合長代行から103年にわたる海員組合の活動の歴史と、今回の本部会館改修・保存工事の意義や内容などについて説明を行った。続いて、ご来賓の方々からのあいさつ、そして竣工を記念したバイオリンとピアノによる二重奏も披露された。

100年以上続けてきた海上労働運動の新たな礎として未来へ紡ぐ

本組合の本部会館は、昭和39年、拠点を神戸から東京へ移転することを決定し、戦後の建築界を牽引した建築界の巨匠・大高正人氏の設計により建設された。それから43年経過した平成19年に、老朽化や耐震問題、周辺開発の状況などを踏まえ、本部会館に関する検討委員会を設置し、本部会館の建替えや移転、大規模改修など、今後のあらゆる方向性について検討が開始された。

そのような中、平成28年に国立近代建築資料館において「社会と建築を結ぶ大高正人の仕事」展が開催され、現存していた本組合本部会館が取り上げられ、建築業界の注目を大いに集めることとなった。このことが、歴史的にも貴重で価値のある本部会館を継続利用する判断のきっかけとなり、大高事務所出身で歴史的な建物の保存・継承活動に携わってきた建築家・野沢正光氏に本部会館の改修工事を依頼した。耐震性能などの調査が十分に行われた後、基本設計、実施設計を策定。第83回定期全国大会で改修計画と予算が承認され、令和5年1月10日に改修工事を開始した。

約2年にわたる改修工事を経て、令和6年11月30日に完工した本部会館は、新築当時の意匠を最大限に保存・修復しつつも、室内の温熱性能や換気、照度といったオフィスとしての機能の最新化を両立させた。

また、本部会館に隣接して建設されたJSビル1階にあるカフェ「Roppongi Coffee」(株式会社マリコットサービス経営)から直結する公共スペースである地下中庭「サンクンガーデン」を復活させ、子どもたちや一般の方でも来館可能な「展示室」と「図書資料室」を新設した。

展示室には100年以上続く海員組合の活動の歴史や本部会館建物の紹介、戦没した船と海員の資料館の資料展示、海運・水産業の紹介などの内容となっている。

図書資料室は本組合が所有する海運・水産業に関する一般図書や組合の過去資料などを閲覧することができる。

また、操船シミュレーターやVRゴーグルを設置しており、船の疑似乗船体験が可能で、各種モデルシップも展示されるなど、来館した子どもたちが見て学び体験することで、船員の後継者の確保・育成を図るほか、一般の方に海運・水産業や船員社会への理解を深めてもらうことを目的としている。



国土交通省・宮武宣史海事局長



厚生労働省・森川善樹政策統括官



連合・芳野友子会長



森健水産庁長官



ご祝辞をいただいた来賓の皆さま

改修工事竣工セレモニー(概要)

改修工事竣工セレモニーは、12月10日11時から始まり、はじめに松浦満晴組合長、田中伸一組合長代行、鈴木順三組合長代行と、来賓を含めた9名によるテープカットにて開幕した。

続いて、主催者を代表して松浦満晴組合長から開会の辞を述べた後、本改修プロジェクトに関する動画を上映し、田中伸一組合長代行からプロジェクトの経緯や改修内容などについて説明を行った。

次に、来賓祝辞として日本労働組合総連合会の芳野友子会長、国土交通省の宮武宜史海事局長、水産庁の森健長官、厚生労働省の森川善樹政策統括官からそれぞれ祝辞が述べられた後、本セレモニーに寄せられた祝電を披露した。続いて竣工記念演奏として、昭和39年に本部会館を設計した建築家・大高正人氏のご息女であるバイオリニストの山田実紀子さんと、ピアノリストの東郷まどかさんによる二重奏が披露され、竣工セレモニーに華を添えた。

最後に、鈴木順三組合長代行からお礼の言葉を述べ、本部会館改修工事竣工セレモニーは終了した。

松浦満晴組合長あいさつ



歴史をさかのぼりますと、本組合の前身である日本海員組合の発足から、私どもは103年間、労働運動を通じて海運・水産業界の発展に尽力してまいりました。

日本海員組合の本部会館は元々神戸にあり、全日本海員組合として戦後に発足後、活動の中心を神戸から東京に移すにあたり、三度にわたる全国大会での激論の末、ついに本部移転が決定されたという経緯がございます。

それは、とても大きな決断であり、計り知れない苦労があったことと思います。その後、戦後の建築界を牽引した巨匠、前川國男氏の弟子であられた建築家・大高正人氏に、1961年に設計を依頼し、1964年には「組合員の団結の象徴」として、この本部会館がこゝろ六本木に完成し、以降60年近くにわたり、組合活動により組合員を支え続けてきました。

本部会館の建物については、老朽化により、2007年から今後の在り方を検討する委員会が発足し、当初は建替える方向で議論が進んでおりました。

そのような中、2016年

ていくことが重要でござい

す。これは、官民労使一体となつて全力で取り組んでいかなければなりません。

このような環境下、今回の改修工事では、建物としての耐震性や快適性などはもちろんのこと、業界の裾野を広げるべく、新たに、地域に開けた機能を設けること致しまして、一般の皆さまや子供たちも利用可能な、本組合の活動の歴史や海運水産業を紹介する「展示室」を設置し、海事関係図書や貴重な資料を保存し閲覧出来る「図書資料室」を設置致しました。

また、こゝ地下大会議室も、今後、皆さまに講演会や音楽会などに幅広くご利用を頂ければと存じます。

こうして本部会館に一般の皆さまにもお越し頂くことで、海運水産業への理解が深まり、船員職業を夢見る子供たちが増え、船員の後継者確保・育成策の一助になれば幸いです。

私達のこの想いと活動を、今後50年、100年と未来へ紡ぐ新たな拠点として、この本部会館は、本日、皆さまと共に無事門出を迎えることが出来ました。来週には本部機能を移転し、この建物での活動を再開致します。

現状のあり姿を残しつつ、大改修を行うといった、大変難易度の高い要望であったと思いますが、野沢正光先生の設計の想いを受け継いで頂いた野沢正光建築工房の皆さま、その想いを形にしてくださった竹中工務店の皆様、本工事に協力いただいた全て

セレモニーのようす



の皆様の情熱とたゆまぬ努力に、改めて敬意と感謝の意を申し上げます。

最後に、本日も越し頂いた関係団体の皆さまにおかれましては、引き続き、本組合に対し、ご指導ご鞭撻を賜りまして、誠にありがとうございました。

すようお願い申し上げますと共に、海運・水産業界のますますの発展と、皆様のご健勝を祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。本日はご出席頂き誠にありがとうございました。



改修工事に至る経緯などを説明する田中伸一組合長代行

二重奏で本部会館の船出を祝う



バイオリンとピアノの二重奏でセレモニーに華を添えた

バイオリン

山田実紀子さん

海員組合本部会館の1964年当初の設計者である建築家・大高正人氏のご息女。メニューインアカデミーでメニューイン氏に師事。現在はフェリス音楽教室講師・マルールロア団員

ピアノ

東郷まどかさん

ハンガリー政府給費留学生としてブタペストのリスト音楽院に留学、その後ミュンヘン音楽大学で学ぶ。1980年、81年の第49回、50回日本音楽コンクール入選。現在は昭和音楽大学、同付属音楽教室講師

改修工事に至る経緯・改修内容を説明(概要)

田中伸一組合長代行から「近代国家日本を支えた船員社会は神戸を中心に育まれましたが、昭和30年以降、国の施策が東京に移る中で、東京に本部を移転することを決定し、昭和39年に組合員の団結の象徴である海員組合の本部会館が六本木に竣工し、活動を展開してまいりました」と設立当時の状況などを説明した。

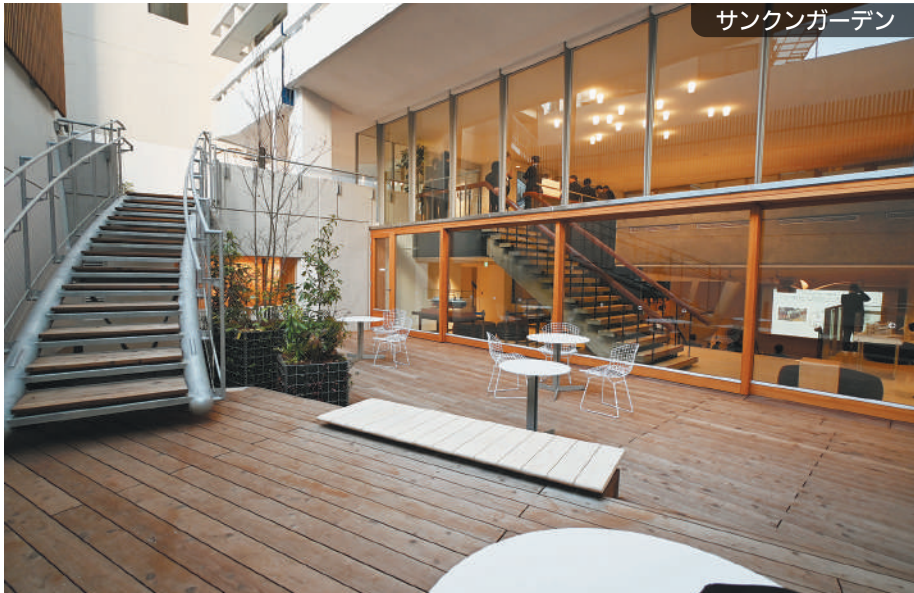
近年においては建物の老朽化が顕在化し、労働運動の拠点としての在り方を検討してきた結果、建て替えを選択せず、改修・保存することで、産業別労働組合の拠点として再生するに至った経緯を説明した。

本組合の活動の歴史や海運・水産業を紹介する「展示室」 貴重な資料を保存し閲覧できる「図書資料室」を設置

操船シミュレーターにチャレンジする芳野友子連合会長



サンクンガーデン



図書資料室でのVR体験



竣工 内覧会

竣工セレモニー終了後と翌12月11日には内覧会を開催し、来館した海運・水産業界関係者を組合スタッフが案内し、執務エリアをはじめ、屋上や会議室、サンクンガーデン、展示室、図書資料室などを自由に巡った。内覧会参加者は、スタッフの説明を受けながら、図書資料室で操船シミュレーターやVRゴーグルなども体験した。

また、内覧会中には、本組合館の改修工事の設計・監理を担当した有限会社野沢正光建築工場の石黒健太代表取締役社長と白岩透氏が、プロジェクトを使用している改修工事の概要などについて詳細な解説を行った。

12月7、8日の二日間、建築業界関係者向けの見学会が開催され、初日の7日は、スタッフの誘導で館内を見学し、13時からは改修プロジェクトチームによる説明会が行われ、冒頭、田中伸一組合長代行が本組合を代表してあいさつした後、有限会社野沢正光建築工場の石黒健太代表取締役社長と白岩透氏から本プロジェクトについて解説がなされた。その後夕刻より、バイオリニストの山田実紀子さんと、ピアニストの東郷まどかさんによる竣工記念演奏会が開催され、多くの来賓が、音響空間としてもこだわって改修された地下大会議室に響くその音色に聴き入った。

17時30分からは竣工記念のレセプションが開かれ、田中伸一組合長代行のあいさつに続き、本組合館改修工事に携



建築業界向け見学会

執務室



船員職業を
夢見る子供たちを増やし、
船員の後継者確保・育成策の
一助としたい



屋上

船員への第一歩！ フェリーあい体験航海

南海フェリー株式会社

白浜町立第一小学校、第二小学校の6年生が体験乗船

12月3日、和歌山県和歌山市において、本組合主催の「船員への第一歩！フェリーあい体験航海」を開催し、和歌山県白浜町の白浜町立第一小学校の6年生32人と白浜町立白浜第二小学校の6年生2人が参加した。

この体験乗船は、体験学習を通じて海や船に親しんでもらおうと本組合の大阪支部が企画し、後援として、白浜町教育委員会、近畿運輸局、近畿海事広報協会、近畿旅客船協会、そして、南海フェリー株式会社の全面協力のもと、関西地方支部管内執行部と職場委員が中心スタッフとなり実施した。

た。その後、児童は3班に分かれ、南海フェリー株式会社の「フェリーあい」に乗船し、さまざまなイベントを体験した。

いざ出港！

「フェリーあい」の出港時には、代表児童が制服を身にまとい、子ども船長として出港の号令や出港後の操舵指示を出すなど船長の手伝いを行ったほか、展望デッキから紙テープが投げられ、見送られながら出港した。

操舵室見学では、児童は乗組員からレーダーや船内指令装置などの説明を受けたほか、双眼鏡を手に取り、遠くの船や景色を眺めた。

機関室・車両甲板見学では、広い車両甲板や実際に運転中のエンジンを見学。初めて船のエンジンを見た児童から「すごく大きくてビックリした」などの感想が聞かれた。ロープワーク体験では、船の作業で基本となる「巻き結び」「本結び」「もやい結び」を教わり、児童は上手に結べるよう真剣に取り組む。最後は全員が結び方をマスターするなど、楽しく学んだ。

続いて、児童代表の古谷愛さんからあいさつがあり、児童代表に平岡英彦中央執行委員から記念の帽子が贈呈され

体験航海・開会式
開会式では、田中伸一組合長代行から「今日は、普段入ることができない機関室や操舵室を見学することができる。今日日、船員になったつもりで、体験してほしい」との主催者代表あいさつに続き、三

浦真二近畿運輸局海事振興部次長、小林敏二南海フェリー株式会社代表取締役社長から来賓のあいさつが述べられた。

浦真二近畿運輸局海事振興部次長、小林敏二南海フェリー株式会社代表取締役社長から来賓のあいさつが述べられた。



「フェリーあい」と一緒に記念撮影



子ども船長



操舵室見学



清水良洋船長(右から三番目)、杉本康弘機関長(右から四番目)



田中伸一組合長代行



小林敏二代表取締役社長
(南海フェリー株式会社)



浦隆幸関西地方支部長



清水良洋船長



ロープワーク

エリーあいの清水良洋船長が紹介され、清水船長があいさつし、その後の入港準備では、出港時とは違う児童代表が子ども船長として、操舵室で船長業務を手伝った。

下船・近畿運輸局和歌山支局へ移動

和歌山支局に場所を移し、その一室をお借りして班対抗のクイズ大会が行われた。海や船に関する問題が出され、児童は班の仲間と真剣に考え、クイズに正解すると、満面の笑みを見せた。またクイズでは全班が全問正解したため、最後はジャンケンで順位を決めるなど、クイズ大会は大いに盛り上がった。

浦隆幸関西地方支部長から「今回の体験乗船を通して、みなさんが中学生になり進路を決める際、船員職業を一つの選択肢にしていただきたい」とあいさつが述べられ、児童代表の湯川太喜さんと白浜町立白浜第二小学校の山田理恵校長先生からは、お礼の言葉が述べられた。最後に児童全員に記念品が手渡され、体験航海は無事に終了した。

2024年12月15日

中央選挙委員会 議長 齋藤 洋

第40期全国委員の資格喪失告示

一、次の者は、規約第47条A項8号により、全国委員資格を喪失したので告示する。

《企業区・企業単位》

027 日本郵船

山森 大幹

第40期全国委員・補充選挙の告示

規約第45条および全国委員選挙規則第25条に基づき、第40期全国委員補充選挙の実施について次のとおり告示する。

一、補充選挙を行う選挙単位と補充定員

《選挙単位コード・単位名》

地方単位 04 関西 1名

企業単位 027 日本郵船 1名

二、補充選挙の実施日程

立候補届出期間 2024年12月15日より

2024年12月24日まで

候補者告示 2025年1月5日

投票期間 2025年1月5日より

2025年1月14日まで

当選人告示 2025年1月15日(予定)

三、補充選挙の被選挙人

(1) 地方区

全国委員選挙規則第25条A項により、補充選挙告示日に当該地方単位の支部機関に配属されており、選挙資格を有する執行部員とする。

(2) 企業区

全国委員選挙規則第25条B項により、補充選挙告示日に補充選挙を行う企業単位に所属する完全資格組合員とする。

四、立候補の届け出

立候補をする者は、全国委員選挙規則付表の一に定める様式に基づく立候補届を担当地区選挙委員会へ提出すること。

五、補充選挙の実施に関する問い合わせ先

中央選挙委員会事務局(総務部)

以上